

研究・調査報告書

報告書番号	担当
120	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The relationship between serious injury and blood alcohol concentration(BAC) in Fatal motor vehicle accidents: BAC=0.01% is associated with significantly more dangerous accidents than BAC=0.00% 死亡交通事故における重症外傷と血中アルコール濃度との関係 血中アルコール濃度.01%は0.00%より有意に重篤な事故と関連する。	
執筆者	
Phillips DP, Brewer KM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2011 Sep;106(9):1614-22.	
キーワード	
交通事故 アルコール 血中アルコール濃度 飲酒運転	
要旨	
目的： 0.01%の血中アルコール濃度が交通外傷の重症度と関連しているかを分析することである。	
方法： Fatality Analysis Reporting System を用いて、アメリカにおいて1994年から2008年に起きた死亡交通事故1495667例を対象とし、血中アルコール濃度による運転者の重傷者の割合を検討した。	
結果： 事故強度は、ドライバーがほろ酔いの時でさえ有意に上昇し、他の交絡因子を調整し、標準化後においても有意であった。3つのメカニズムがほろ酔い運転と高い事故強度と関連した。酔っていないドライバーに比べてほろ酔いのドライバーは、有意にスピードを出し、適切にシートベルトをせず、加害車両の運転をしていた。加えて、これらの3つの要素と事故の重大性との間には、用量依存性の関連があった。血中アルコール濃度が高くなればなるほど平均スピードが上がり、事故の重大性も上がった。	
結論： 生命に危険を及ぼすほどの交通事故は、血中アルコール濃度が現在のアメリカで上限としている0.08%よりもはるかに低い濃度で大きく増加した。法律の上限を下げる事が生命を救う事となり、重大な外傷を予防し、交通事故関連の経済的・社会的コストを減少させることになる。	